

# 令和6年度学校自己評価システムシート (県立北本高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生きる力を地域社会とともに育む学校
--------	----------------------------------

重点目標	1 基礎基本を重視し、確かな学力の育成及び体力の向上を図る。 2 個に応じた進路指導を充実させ、多様な進路希望の実現を図る。 3 自主自律の精神と規律を重んじる態度を育成し、豊かな心を育む教育活動を推進する。 4 地域連携事業を推進し、生徒の社会性及びコミュニケーション能力を育む。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価						年度評価(月日現在)		
年度目標						年度評価(月日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	(現状) 本校生徒は、意欲的に授業を受けている生徒が多く、基礎学力の定着に努めている。タブレット端末の効果的な活用が進められている。 (課題) 生徒の学習意欲の向上に繋がるためには、更なる教員の授業力向上が必要である。また、授業におけるタブレット端末のより効果的な活用への工夫や改善が求められる。	生きる力と確かな学力の定着	①「主体的・対話的で深い学び」の授業実践と授業研究を積極的に行い、教員の授業力向上を図る。 ②タブレット端末を効果的に活用する授業への発展・工夫に取り組む。 ③観点別評価について、全教員で情報共有を図るとともに効率的な運用に努め、三者面談時に生徒及び保護者へ継続的に説明を行う。	①「授業がわかる」という生徒の割合が90%以上か。 ②全教科において、タブレット端末が効果的に活用されたか。 ③職員会議等において、観点別評価について全教員で情報共有がなされ、点検や見直しが実施されたか。				
2	(現状) 段階的な進路指導が行われ、個の生徒が進路意識を高く持って活動している。進路説明会等で保護者へ進路状況が提供されている。 (課題) 多様な進路実現に向け、今後も進路活動を充実する必要がある。生徒の進路行事においても保護者に参加を促し、更なる連携の強化を図ることが重要である。	個に応じた進路指導の充実と保護者との連携強化	①段階的な進路指導を継続するとともに個に応じた進路実現のため、最新の進路情報を生徒及び保護者に効果的に発信する。 ②保護者向け進路説明会を継続的に行うと共に、生徒の進路行事への参加を促し、家庭との更なる連携強化を図る。 ③長期休業中等を利用し、生徒の進路実現に向けた個別指導や面接指導を充実させる。	①生徒及び保護者に対し、最新の情報提供ができたか。進路掲示板等が効果的に活用できたか。 ②進路説明会や進路行事等において、保護者へ最新の情報共有が行われ、密に連携できたか。 ③個に応じた進路指導が計画的に実施できたか。				
3	(現状) 多くの生徒は基本的な生活習慣が身に付いており、落ち着いた学校生活を送っている。多様な生徒が入学しているため、外部教育力を活用した個に応じた支援が行われている。 (課題) 日常的に遅刻指導や整容指導等の生徒指導上の課題があり、学校全体で取り組んでいく必要がある。教育相談体制づくりについては、校内コーディネーターを中心とし、より一層充実を図ることが重要である。	規範意識の向上と主体性の育成 個に応じた支援の推進と組織的な体制づくりの充実	①整容指導等においては、時代や世論等の考え方を取り入れ、継続的に推進し、生徒が主体的に基本的な生活習慣を確立する指導を行う。 ②生徒が部活動や学校行事等に主体的に参加し、活躍できる場を増やし充実させる。 ①教育相談計画のもと、支援の機会を充実させ、全教職員で情報共有し、個に応じた支援をより一層深める。 ②生徒情報等について、学年等で共有するとともに、管理職へ報告、連絡、相談を適切に行うことで、組織的体制を確立させる。	①生徒指導部及び学年を中心として、整容指導等を検討・見直しを行い、具体的な改善があったか。 ②部活動や学校行事等に、積極的に生徒が参加し、活躍できたか。 ①巡回支援相談員やスクールカウンセラー等の外部教育力を有効活用し、個に応じた支援が適切に実施されたか。 ②迅速かつ効果的に生徒情報が共有できる組織的体制が確立できたか。				
4	(現状) KISEP(北本市小・中・高相互交流事業)や地域の交流事業への参加等を行い、積極的な地域連携を図っている。学校公開等において、中学生等の外部に本校の魅力や強みを発信している。分校とも学校行事等で連携を図っている。 (課題) 地域連携等においては、教員の負担を考え、参加方法の工夫等が必要である。本校の強みや魅力をより一層外部に発信するためには、より効果的な広報活動が重要である。生徒が共生社会を更に理解するため、分校との連携機会を増やすことが、今後も必要である。	地域交流の推進 本校魅力の発信に伴う効果的な広報活動	①交流事業の意義を踏まえ、北本市教育委員会及び中丸小学校、市内中学校と連携し、計画的かつ効果的に実施する。 ②北本市役所、鴻巣警察署、北本市自治会、北本市観光協会等と積極的に連携し、地域交流を図る。 ①保護者や中学生、中学校教員等に向けた学校公開の工夫や学校HPの更なる充実および積極的な発信により、本校の魅力を最大限に広報する。 ②北本分校と多くの場面で積極的に連携し、豊かな人間性を育むとともに、お互いが尊重し合う機会を増やし、共に学ぶ教育環境を構築する。	①北本市教育委員会及び中丸小学校、市内中学校と連携し、KISEPの計画立案、より良い活動が実施できたか。 ②地域機関と積極的に連携・情報共有ができ、効果的な地域交流が図れたか。 ①本校の魅力について、中学生や保護者、中学校教員等に効果的に広報され、十分に情報発信ができたか。 ②分校連携委員会が、定期的に開催され、有意義な情報共有が行われ、多くの場面で交流が行われたか。				

学校関係者評価	
実施日	令和 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	